闘いなくして安全なし

2022.08.15
No．３６２

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://dourousien28.kane-tsugu.com/renrakuban/
dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！　定年延長と 65 歳まで働ける職場を！

コロナ拡大で要員ひっ迫 行路の一部持ち替えが発生

業務融合・相互運用の中止を

コロナ感染症拡大の中で、千葉運輸区が鴨川運輸区の行路の一部を担当するということが行われました。また、指令員にも乗務させるという話もあがっています。この間、各運輸区で陽性者が相次いだためです。

ＪＲ九州では、運転士・車掌の陽性者や濃厚接触者が拡大し、７月27日～８月５日までの間、特急「ソニック」の上下１００本、特急「かもめ」の上下線20本、あわせて１２０本が運休になりました。

乗務員の負担増は安全問題に直結

一方で会社は業務融合や統括センター設置を進めています。職名まで廃止し、ジョブローテーションと称して乗務員を次々に配転しています。

７月からは千葉運輸区で「車掌業務と運転士業務の相互運用」・「乗務できる管理者の拡大」が順次進められています。

直接的な目的は、「管理者の乗務拡大」を含め、運転士・車掌の要員数を徹底的に減らしていくことです。

しかし、徹底して要員を削減すれば、今回のような感染症拡大時に対応できなくなります。さらに要員を削減し、現場の乗務員の労働強化・負担の増加をおしつけるなどあってはなりません。それは鉄道の安全破壊に直結する問題です。

鉄道業務を軽く見てはならない

職名廃止・業務融合・「相互運用」などは現場労働者を「何でも屋」として働かせる攻撃です。会社は運転士の仕事も車掌の仕事もあまりに軽く見ています。現場労働者の誇りを踏みにじり、団結を破壊する攻撃は断じて許せません。

鉄道はさまざまな系統の専門的な知識・技術・経験の上に成り立っています。そういった各系統の専門性を軽んじては、鉄道の安全も破壊されてしまいます。

会社の攻撃に対する最大の反撃は、職場からの怒りの声と闘いです。職名廃止・ジョブローテーション・業務融合・統括センター設置・「相互運用」・管理者の乗務拡大に、職場から反対の声をあげよう。